

友達の巨乳お母さんと
中出しセックス
した話

下巻



フルカラー60P

欲求不満の人妻、麻美（あさみ）に
エッチに誘われる翔君。
プレイはどんどん激しくなり……

友達の巨乳お母さんと
中出しセックスした話 下巻

作・画 窪リオン

お風呂場で、
麻美さんは僕を
洗ってくれた。

身体を密着させて、
おっぱいやおマンコを
使って洗ってくれた。

泡だらけの身体で
抱きつかれると、
気持ち良くて、

それだけで
イッてしまい
そうだった。



麻美さんは、
大きなおっぱいを
押し付けて、背中や
お腹を洗ってくれた。

僕の腕を取り、
自分のお股に挟んで
前後に動いてくれた。

はあ、
あ、
あ

しゅわ
わ

しゅわ
わ

凄く
気持ち良くて
最高だった。

麻美さんも
気持ちいいみたいで、
それも嬉しかった。

おチンチン、
ずっと
大きいままだね

麻美さんは、
おっぱいで
僕を洗いながら、

おチンチンを
ぎゅつと握りしめて、
シコシコしてくれた。

うん、
おマンコに
入れたい

精子びゅうびゅう
出したい！

僕は、1日中、
精子を出していたい
と思っていた。



いいよ、
精子びゅうびゅう
しようね

でも、おマンコ
じゃなくて、
アナルにも
入れて欲しいな

アナル？

お尻の穴よ

え!?

そんなところに
入れて大丈夫か
不安になった。

ん？

んっ
んっ
んっ

お尻の穴も
気持ちいいの

ローションつて
いうヌルヌル使うと
凄く気持ちいいから

お...お尻...

麻美さんは、
そう言うとお小袋を
持ってきた。

おチンチンに
つけるよ

麻美さんは、
小袋を切って、

ヌルヌルした
透明の液体を
僕のおチンチンに
塗った。

ほら、これで
シコシコすると
気持ちいい
でしょ？

気持ちいいー！

麻美さんは
ヌルヌルになった
チンコを挿んで
しごいてくれた。

麻美さんに、
ヌルヌルチンコを
しごかれると、

凄く幸せな
気持ちになった。

おぢよ

めぢよ

麻美さんの
お尻の穴に、
おチンチンを

入れたり
出したり
したくなった。

お尻の穴に
入れている？

いいよ、
入れて欲しいな

麻美さんは、
大きなお尻を
僕に向けて
しゃがんだ。

僕は、
麻美さんのお尻が
大好きだった。

見ているだけで
精子がびゅうびゅう
出ちやいそうだ。

うわあ...

ほら、ここ、
おチンチン
お願い

はあ
はあ

麻美さんは、
自分でお尻の穴を
広げて
お願いしてきた。

とん...
とん...

僕は、
カチカチになった
おチンチンを掴み、

麻美さんの
お尻の穴に
先っちょをあてた。

ヌルヌルローションで
お尻の穴も濡らすと、

ゆっくり
押してみた。

はあ...

ニヤッ...

あああ、
いい。
いいよ……

あああ...

麻美さんは
興奮している
みたいだった。

少し強く
押した。

おチンチンの先が、
ずるっと、
お尻の穴に
滑って入った。

ヌルヌル
してるから、
簡単に入った。

ああっ！

うわあ！
気持ちいい！

お尻の穴が
おチンチンを
しっかり握ってきて、

凄く
気持ち良かった。

何か、
いけないことを
している感じ
がして、

ドキドキした。

気持ちいいよ……
ゆっくり
動かしてみて

うん

あ
あ……

は
あ

あ、

あ、

あ、

僕は、おチンチンを
ゆっくり抜いて、

また、
奥まで入れた。

ああ、いい、
最高……

麻美さんは
快感をじっくり
感じている
ようだった。

僕も気持ち
良かった。

おチンチンも
気持ちいいし、

お尻の肉が
あたってくるのも
良かった。

ずず

あ
あ
あ

はあ

ニニ

ニ



おチンチン、
早く
動かしてみて

うん、
やってみる

おチンチンを
早く出し入れ
してみた。

ヌルヌル
ローションの
おかげで、

簡単に
動かす事が
出来た。

んん
んん
んん

ぐちゃ
ぐちゃ
ぐちゃ

あ
あ

うん
あ

はっ!
っ!
っ!
あっ!
っ!
っ!
いいよ!

麻美さんは、
お尻の穴で
感じながら、

自分で
おマンコを
いじっていた。

あっ
あっ

あっ
あっ

くっ
くっ
くっ

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

す
す
す

す
す
す
す
す
す
す
す
す
す

僕が、
おチンチンを
突っ込むたびに、

お尻のお肉が揺れて、
それがすごく
エッチだった。

あああ、
やばい……
イুকかも

おばさん、
翔君のおチンチン

お尻の穴に
入れられて
イツちやうよ……

へかか

かか
かか

はっはっ
はっはっ

はっ

はっ

僕は、
麻美さんに
イッてもらいたくて、

腰の動きを
さらに早めた。

あっ!
イク!

ああ!
あっ!

ビキ
ビキ

ビキ

↓
130

↓
130

↓
130

麻美さんは
叫ぶと震えた。

おマンコから、
愛液が流れ出て
いるようだった。

あぁっ！
あぁっ！

熱い！
熱いよ！
精子、熱い！

はぁあ...
あ

ひゅん

ひゅん

僕は麻美さんのお腹の中に
たくさんの精子を出した。

凄く気持ち良かった。

ゆつくり
抜いて……

言われて、
僕はおチンチンを
ゆつくり抜いた。

す

あ

あ
あ

抜く時も
凄く気持ち
良かった。

ああ、
凄い……

お尻の穴、
ホカホカに
なってる……

ぶる
ぶる

とろ

とろ

麻美さんの
お尻の穴は、
ぽっかりと開いて、

精子が
流れ出てきた。

ぶる
ぶる

凄く興奮する
姿だった。

おマンコにも
入れていい？



僕のおチンチンは
大きいままだった。

もつと精子を
麻美さんに
出したかった。

とろ

とろとろ

え!? 凄い!
まだ大きいの!?

麻美さんに
驚かれたけど、

僕はまだ
エッチしたかった。

とろとろん...

じゃあ、綺麗にして、寝室行こう

私、して欲しいプレイがあるの

麻美さんは、おチンチンを洗いながら言った。

わめ

ふふ♡

麻美さんに洗われるととっても気持ち良かった。

おチンチンはギンギンに大きいままだった。



これ、付けて
欲しいの

それ……

首輪。
私をワンコ
みたいにして、
散歩させて

僕は混乱したけど、
とにかく麻美さんに
首輪を付けた。



は、恥ずかしい
雌犬だな

麻美さんは
身体を震わせて
喜んでいた。

僕も何故か
凄く興奮した。

ああっ！
あっ！
感じちゃう！

ぶる
ぶる

ぶる

スケベマンコ
光らせてる
淫乱雌犬とか、

チンコ大好きな
エロペットとか
言いまくって！

長くて
覚えられ
なかったけど、

だいたい
どうい言葉が
好きなのか
わかった。

マンコ愛液で
光らせて、
チンコ欲しがる
雌犬が！

チンコ
ハメられたい
エロペット！

ああっ！
いい！

チンコ
ハメて欲しい！

麻美さんは、
凄く悶えながら、
お願いしてきた。

僕もチンコを
入れたくて
たまらなくなった。

とんとんとんとんとんとん

あそこにある鞭で叩きながらチンコ入れて！

テーブルの上に、先がバラバラに分かれている鞭があった。

バラ鞭って言って、軽く叩かれると、凄く気持ちいいの

鞭で叩かれるのが気持ちいいなんて、

不思議だな、と思ったけど、とにかくやってみることにした。

あ

あ

あ

僕は四つん這いになつた麻美さんのおマンコに、

おチンチンをずるつと入れた。

おマンコは愛液で濡れてるから、簡単に入った。

ああ、いい、やっぱり凄くいい……

うま

はあ

あ

僕も凄く気持ち良かった。

んんん……

僕は腰を動かして、おマンコのお奥におチンチンを突っ込みまくった。

クチュクチュと
言う音が、すつごく
興奮した。

はああ、
気持ちいい、
気持ちいいよ

鞭で叩いて！
入れながら
叩いて欲しい！！

麻美さんは
お尻を振りながら
お願いしてきた。



僕は腰を
動かしながら、
鞭で麻美さんを
叩いた。

ああっ！

麻美さんが
叫ぶとゾクゾクした
感じがして、
気持ち良かった。

だ、大丈夫？

大丈夫、
もった
強くていいよ



僕は
もう少しだけ
強く鞭を振った。

はあっ！

あああ、
気持ちいい！

おチンポ
入れられながら、
鞭で叩かれるの
気持ちいいです！

ああ、
鞭で叩かれるの
好きな変態人妻です！

麻美さんが
悶えるほど、
僕は気分が
良くなった。

あ
あ

ず
ず
ず
ず
ず



さ、さっきみたいに
恥ずかしい
言葉で責めて！

私を
おチンチン愛撫の
道具にして！

アッ

あ
あ

あ
あ

エッチって
色んな事を
いっぱいしないと
いけないんだな、
と思った。

でも、
そうすると
気持ち良さも

どんどん
強くなると
思った。

変態マンコ
人妻！

チンコハメられて、
鞭で叩かれて、
マンコ愛液で
濡らしまくる雌犬が！

気持ち良くて
尻振りまくって、
本当にスケベな女だな！

はっ

はあ

はあ

ああ！
ああ！
スケベな女です！

ああ、妻い！
ご主人様！

僕は自分が
天才子役になった
気分演技する
事にした。

その方が
喜んでもらえて、
気持ち良かったから。

もっと！
もっとののしって
ください！

ののしるといのは、
いじめるような
言葉だと思った。

ほら！
尻振って、
チンコしごけ！

マンコの奥に
チンコ突っ込んで、
精子欲しがれ！

ああ
はっはっ！
はっはっ！

良くわからないけど、
ひどい事を
言うほど

興奮したし、
麻美さんも
感じてくれた。

ああっ
気持ちいい！
ああ、精子出る！！

ああっ！
頂戴！
頂戴！！

おマンコで
激しく
おチンチンを
しごかれて、

僕は我慢
できなかった。

僕は、
麻美さんの
尻肉を掴むと、
おチンチンを
ぐいっと
突っ込んだ。

あっ
うっ
うっ

くっ
くっ
くっ
くっ
くっ
くっ
くっ
くっ
くっ
くっ

えっ
えっ
あっ
あっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ああっ！
あっ！

僕のおチンチンから
何度も何度も
精子が飛び出た。

そのたびに、
おチンチンは
振り返り、

麻美さんの体も
ビクンビクンと
跳ねた。

麻美さんと
同時にイケたのが
凄く嬉しかった。

ビクン

ビクン

ビクン

ビクン

ビクン

少し休んでから、
麻美さんは
縄を持ってきて、

自分の足を
縛った。

ローション塗って、
手をおマンコに
入れてみて

手を!?

そう、
手を入れて、
おマンコの中
グリグリして欲しい

アッ

僕は
そんなことして
大丈夫なのかと
思ったけど、

とにかく
やってみる
ことにした。

僕はローションを
右手に塗って
おマンコにあてた。

ヌルヌルして
いるから、指は
簡単に入っていた。

はああ！
凄い……
感じる！

もつと
入れている？

いいよ！
手首まで
入れてみて！

ふわあ……

ズンズンズン

僕は
ゆっくりと
手の甲を入れた。

おマンコが
僕の手を
包んでいて、
凄く興奮した。

どん……

おマンコに
手首まで入った。

ああ！
いい！

凄い！
凄いや！！

おマンコ、
翔君の手、
感じる！

指で
おマンコの壁、
グリグリ
やってみて！

僕は手首を
回転させ、指で
おマンコの中を
押しまくった。

はああっ!
ああっ!
あっ!

凄い……
はあ、
凄いよ……!

麻美さんは
のけぞり、

身体をくねらせ
感じまくった。

あ
あ
うあ
あ

びく
びく

びく
びく
びく
びく
びく

びく
びく

僕も
凄く興奮して
さらに手首を
暴れさせた。

おまんこは
グチュグチュと
やらしい音を
立て続けた。

愛液が
どんどん
溢れてきた。

麻美さんは、
僕に抱きつき、

口の中に舌を入れて、
僕の舌を
舐めまくった。

さらに、
硬くなった
チンコを握りしめ、

しゃがみこんだ。



おマンコに
手を突っ込むと
凄く興奮できた。

ちゃ
ぼ
ちゃ
ぼ

ん
ん

ん

ん

ざ
ざ

ぶ
ぶ

び
ちゅ
び
ちゅ

び
ちゅ

手を
暴れさせると
麻美さんが

感じまくって
くれるのも
嬉しかった。

キスされるのも、
おチンチン
しごかれるのも

気持ち良くて、
最高だった。

僕もお返しに、
おマンコに手を
突っ込みながら、

感じる部分を
舐めまくった。

麻美さんの
おマンコは、
僕の手を

ずっぽりと
包み込んで、愛液を
流し続けていた。



麻美さんに
チンチンを
しゃぶられながら、

おマンコの中を
手でかき回すのは、

とっても
気持ち良かった。

ああ、
出ちやう！

気持ち良すぎて、
我慢できなくなり、

僕は麻美さんの
口の中に
精子を出した。

あ

あ

びゅ
びゅ

びゅ

ん

ん

ん

やっぱり
気持ちいい刺激が
何度もやってきて、

僕は、
それをじっくり
楽しんだ。

おチンチン、
おマンコに
入れていい？

いいよ、
私のおマンコ、
勝手に使って
気持ち良くなってる！

あ
あ
あ

は
あ
は

おマンコ、
翔君のおチンチン
気持ち良くする
道具にして！

麻美さんを、
自分で好きに
出来ると思ったら、

チンコは
どんだん
硬くなった。

びびび

びび

びび

縛られた
麻美さんは、

本当に
僕のおチンチン愛撫の
道具のようだった。

はあ

ふは

ちゅちゅちゅちゅ

動けない
麻美さんに勝手に
おチンチン
入れられるなんて、

凄く幸せな
事だった。

僕は、カチカチの
おチンチンを
濡れまくっている
おマンコに入れた。

入れる時の
気持ち良さが
好きだった。

ああっ！
あっ！

はああ、
気持ちいい！
いいよ、おマンコ、
グチュグチュにして！

しゃ

はあ...あ...

麻美さんの言葉に、
僕は興奮し、さらに
激しく腰を動かした。

麻美さんの
おっぱいを掴み、
頬張って、乳首を
吸いまくった。

ちゃー
ちゃー

ちゃー

あっ
あっ
あっ

んっ
んっ

ああああ、
最高！
最高だよお、
翔君、私幸せ！

おマンコを
グチュグチュにして、

涎を垂らす
麻美さんがとっても
エッチで最高だった。

僕は、色んな角度で
おチンチンを
おマンコに
突っ込んだ。

おマンコの
色んな部分を
ツンツン
したかった。

麻美さんは
イキ過ぎて
ぐったりしていた。

そんな麻美さんは、
エッチな人形
みたいで、

凄く
可愛かった。

僕は、
何度も何度も、
精子を出した。

精子が出る瞬間を
じっくり楽しんだ。

あ、ああ……

僕が、
精子を
出すたびに、

麻美さんは
小さく声を出し、
感じてくれた。



チンコを
おマンコから抜くと、
精子が溢れ出てきた。



精子をドロドロと
溢れさせるおマンコを
見ていると、

幸せな気分になり、
ますます興奮した。

ああ、
良かったよ翔君。
おチンチン舐めて
綺麗にしてあげる

こっちに来て、
おチンチン
しゃぶらせて

お。

はあ

はあ

ぐったり
したままの
麻美さんが言った。

僕は麻美さんの
顔にまたがった。

麻美さんは、
いやらしい音を
立てて、

僕のおチンチンを
しゃぶりまくった。

うっとりする
快感が
たまらなかった。

ああ、
イツチャウ……

はあ

はあ

ちゅる

ちゅ

ちゅ
ちゅ
ちゅ

ちゅ



僕は麻美さんにおチンチンをしゃぶらせたまま、

精子を出した。

麻美さんは、その精子を飲みながら、

おチンチンを舐め続けていた。

ああ、
ああああ…

エッチって本当に気持ちいいな、と思った。

びゅん
びゅん

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃぐちゃ



翔君、
今日はありがとう

また、
しましうね

うん。ああ、
また大きく
なっちゃうよ

いいよ、
ゆつくり
舐めてあげる

僕は、
麻美さん
におチンチン
しゃぶられながら、
ずっとこんな時間
が過ぎたらいいな、
と思いつけた。

終わり